



ハリーン

北はりま エコニュース Vol.2 ECO-NEWS

北播磨地域さわやかな環境づくり行動計画推進委員会



ふるさと自然探検隊で、はばタンも一緒にパチリ！ 多可町那珂ふれあい館にて

「いのち」を学ぶ学習、それが「自然体験」「環境学習」です

私たちは、地球の環境の中で生きています。大気、水、土、生物が網目のようにつながって、それぞれの地域で環境を形づくっています。その中で、私たちは「人間」という生物として他の生物と共にこの地球上で生きており、お互いに尊い「いのち」を持つ存在として、尊重し合うべきものです。

しかしながら、人間の産業活動の中で絶滅の危機に瀕している野生動植物の保護に心を配らない、動物を虐待する、ひいては人間同士でいのちを軽視するなど、いのちを尊ぶ心が失われているのではないと思われるような出来事や事件が後を絶ちません。いのちある生物で構成されている自然環境の中で生きていることを理解し、実感することは、万物の生き物のいのち、人間のいのち、ひいては自分の命を大切にする心をはぐくむことにつながります。

私たち人間は、産業活動を優先し続けた結果、地球温暖化や廃棄物の排出量の増加、森林の減少、酸性雨、生物種の減少など、しっぺ返しとも言うべき様々な環境の課題に直面しています。これらの問題は、自然に解決するものではありません。私たち自身が、家庭で、地域で、職場など、普段の生活の中で、問題解決に進んで取り組むことが大切になっています。

そのためにも、私たちは子供や孫の世代が「いのち」と「地球環境」「自然保護」などについて真剣に考えることができるように、環境教育、自然体験の充実について真剣に取り組む必要があります。

北播磨県民局では、北播磨の環境保護団体、自然愛好団体などと協力、連携し、「自然体験」「環境学習」をテーマとした体験型学習会、フォーラムなどを、平成18年度もさらに発展させて実施する予定です。ぜひ、平成18年度のイベントにも多数の皆様からのご参加をお待ちしております。

平成18年度の各イベントの日程、詳細は決まっておりませんので、北播磨県民局のホームページで確認、または北播磨県民局環境課にお問い合わせ下さい。

平成17年度北播磨県民局環境イベント報告

親子川がき教室

第一回 平成17年7月31日(日)

第二回 平成17年8月20日(日)

志染川 呑吐ダム下流で川原にハシゴで降りて川の中を歩いたり、魚を取ったり、自分達で取った魚を調理して一日を楽しく過ごしました。自然の中で親子親和・共同の作業を行い、水環境について学び、人の生活と水質について考えてみました。



ふるさと自然探検隊

第一回 平成17年9月11日(日)

第二回 平成17年11月23日(祝)

那珂ふれあい館 なか・やちよの森公園 古墳見学や勾玉作りに挑戦して、昔の日本人の生活を学んだり、葉脈などのクラフトづくり、ハイキング、カートドッグやオープンピザ、棒焼きパンを焼いて自然について学びながら楽しい一日を過ごしました。



北はりま冒険あそび場〔どんぐりっ子あつまれ〕

平成17年8月1日~1泊2日、5回

自然の中で自然の素材を使って、子供達だけでキャンプを行い、自分達ができる環境活動を展開しました。

加古川流域交流フォーラム

平成17年12月3日(土)

三木山森林公園の森の研修館にて、兵庫県立人と自然の博物館主任研究員 三橋弘宗氏が「北播磨の生き物と川・ため池・里山の環境」について講演をしてくださいました。



ECOコミュニティ北はりま

このコーナーでは、環境保全や自然保護、リサイクル活動等に取り組む団体や地域での取り組みを紹介します。

エコ三木

エコ三木活動報告

エコ三木は三木市在住の地球温暖化防止活動推進員・協力員によるボランティアグループです。毎月1回例会を開いて活動計画や活動方法について話し合っていますが、その時必ず三木市生活安全化課の人が同席してくれます。

4年前から活動を始めましたが、やっと「活動の3本柱」が定着したようです。その第一は「みき金物まつり」への出展です。今年も11月5日・6日、官公庁コーナーに間口7.2m、奥行き3.6mのテントを建て「ごみとリサイクル」および「自然エネルギー」をテーマにメンバーが交代でがんばりました。また、北播磨各地区の推進員の方々にも応援いただきました。ありがとうございました。



今年から登場した「エコハウス」

太陽光パネルを屋根に張ったモデルハウスで、家中の電灯が点き、扇風機が回り、音楽が聞こえるのが自慢です
熱心に30分も説明を聞いていた人もいました。



第二は「みきボランティアフェスタ」への参加です。真夏の7月24日、今年のみっきいホールでブースを構えました。「ごみとリサイクル」のアンケートは我々の活動の定番です。今年も市長をつかまえてアンケートに答えてもらいました。

アンケートの内容は「あなたもチャレンジ(ゴミ)減量化!」というタイトルで対面式で質問に答えています。その一部を表にしました。

	買い物袋を持ち歩く人の%
平成16年みき金物まつり	67
平成16年みきボランティアフェスタ	57
平成16年小野市やえざくら祭り	31
平成17年みき金物まつり	67
平成17年みきボランティアフェスタ	78

第三はアフタースクールへの出前教室です。三木市内には10ヶ所の小学校に併設されたアフタースクールがありました。今年は吉川町と合併したので12ヶ所になったようです。活動開始は平成15年度で、その年は1ヶ所、16年度は8ヶ所、17年度は今のところ10ヶ所ですが、旧吉川町の2ヶ所からも声がかかることを期待しています。活動が少しずつ増えているので、内容の充実一同無い知恵を絞っています。この活動にも北播磨の推進員の方々の応援がありました。遠いところ本当にご苦労様でした。

プログラムは次の通りで、ポイントは“今日は何でもいいから一つおぼえて！おぼえたことを帰ったらお母さんに、はなしてちょうだい”です。

お話・自作環境カルタやクイズ

ごみ分別ゲームやかん釣ゲーム

紙芝居

「へんしんランドへ GO!GO!」

「おなががすいて こまったクマくん」

「あゆ太郎 川をゆく」



自作環境カルタでクイズ



ごみ分別ゲームかん釣ゲーム



かん釣ゲーム

ここでいきなりですが・・・

ごみゼロ北播磨！マスコット ハリーン 誕生！

兵庫県北播磨県民局では、豊かで美しい北播磨の自然を守るための不法投棄の未然防止の活動、「ごみゼロ北播磨！」のシンボルとなるマスコットキャラクターとして、「ハリーン」を誕生させました。

ハリーンはイラストのほか、着ぐるみも登場し、イラストはチラシや刊行物などに、着ぐるみは不法投棄禁止の街頭啓発活動やこども環境学習など、環境保全、自然保護に関する様々なイベント等に登場する予定です。

ハリーン プロフィール

- ・生みの親
高知県吾川郡いの町 松尾久美子さん（公募にて決定）
- ・正体
北播磨に住む人々、鳥や魚などの生き物、森や川、池や田んぼの「美しい北播磨を守りたい！」という想いが集まって生み出された妖精。普段は北播磨の森や川、池などの自然が豊かなところに住んでいて、ゴミをどこにでも捨てる悪い人たちをしっかりと見張ってます。
- ・特技
魔法のほうきでゴミを探知し、バリアを張って野山や川や池にゴミを捨てる悪い人を追い返します。
ちなみに「ハリーン」は、「播磨」と「クリーン」を重ね合わせて命名しました。



西脇市動植物生態調査研究グループ

私たちのグループは、あちこちにたくさんある 研究会とか を守る会などと比べると、一寸変わったグループではないかと思っています。

それというのは、今から30数年前、市内にある小学校の児童会の子どもたちが「天然記念物のモリアオガエルを守ってください」という手紙を市長に送ったのがきっかけで、「市内に棲む動植物の分布状態を調べてみよう...」ということで始まった集まりだからです。

全員が素人ばかりですが、鳥のこと、虫のこと、魚のこと、植物のことが好きな者の集まりで、結果的に自然界全体を見ることになってしまいました。

今では、みんなが環境問題についても少しは知識を持つようになりました。

写し貯めた写真は現在3万~5万点くらいはあると思います。これを活用しようということで、自分たちなりの工夫をしています。

合同調査と称する**観察会**の様式です。夏にはテントを持って出掛けたり、雪の日も出かけます。1年に1回は県外まで観察研修に出かけます。

写真 県外研修会
右 長崎県諫早湾
左 徳島県剣山



昭和50年から実施している**ガンガモ類渡り鳥の調査**の様子です。後ろのテレビカメラはサンテレビジョンの取材です



59年から環境庁の**水生生物調査**に参加したり、緑の国勢調査にも協力しました。



市民学習講座のひとつ「自然ウォッチング」の観察指導の一場面です。

「子主の社云伴映子自」**「フイヤル・ソーク」**の指導も行います。



兵庫県立播磨農業高等学校

土へ還そう！ ～せん定枝を利用した循環型農業への挑戦～

兵庫県立播磨農業高等学校 園芸科 果樹コース

園芸科 果樹コース 3年 松井さとり

私たち果樹コースでは、約250aの果樹園で北播磨の特産である「マスカットベリー-A」をはじめさまざまな果樹の栽培技術を学んでいます。

毎年、7月下旬のモモの販売から9月下旬のベリー-Aの販売期間には、私たちが丹誠込めて育てた果実を買い求めに多くの方が足を運んでくださいます。その時の「ここのブドウは、ほんと甘いね。」「みんなが育てたの？大変だったでしょ。」という言葉が、私たちにとって甘い果実の味よりも、何よりも大きな収穫です。



私たちのアイデア 果樹環境班 3年 阿田 健太郎

果樹栽培では、高品質な果実の安定した生産のために、毎年冬期にせん定作業を欠かさず行います。そのせん定作業でブドウでは、10a当たり約200～300kg、本校の場合では約5tという大量のせん定枝が発生します。

発生した大量のせん定枝は、従来暗きょ材として土に埋められていましたが、紋羽病の発生原因と量の多さから、一般的に焼却処分されているのが現状です。

現在、この処分方法が環境保全やリサイクルという観点から、全国的に「家畜糞との堆肥化」の研究が進められています。そこで私たちは、校内の枝や落ち葉を腐葉土として利用することからヒントを得て、ブドウだけでなく果樹のせん定枝を使って「培養土への再利用」の研究に取り組んでいます。



私たちの取り組み 果樹環境班 3年 塚本 歩

ダイズを使って、せん定枝を細かく切ったものと一般的に利用されている培養土を混合し、発芽実験を行いました。

その結果、枝の混合割合や枝に含まれている成分の影響という課題もありますが、十分利用できることが確認できました。現在、ダイズの実も膨らみはじめ収穫して比較することで、大きな結果が得られると思います。

その発芽実験での成長結果から、現在では本校の草花コースと加西市の緑化連携事業への利用についても実験を行っています。加西市の市花「サルビア」と特産品「ベリー-A」により、地域への環境創造を提案していきたいと考えています。



私たちの提案 果樹環境班 3年 前川 智慧

私たちの取り組みは始まったばかりですが、今後もこの研究を続けたいと思います。

果樹農家だけでなく、さまざまな分野の農家が互いに協力することによって、「廃棄物ゼロ」の農業は達成できる、と私たちは考えています。今後は畜産分野や造園分野など、私たちに甘い果実を与えてくれた枝を「土に還す」ことを続けていきます。

私たちの小さな一歩ですが、この取り組みによって北播磨一全国に先駆けた「循環型環境保全農業」のモデルとなることを指したいと思います。



加西市の万願寺川と下里川の水生生物による水質調査

兵庫県立播磨農業高等学校 生物部 副部長 3年 福岡 直樹

播磨農高の生物部では、平成8年から加西市内の河川を、水生生物による水質調査を行ってまいりました。今回はその10年間の報告を行います。

1 調査地点

- ・万願寺川上流（極楽橋下流）両岸コンクリート護岸です。川底は岩が露出した所も見られます。
- ・万願寺川下流（鎌崎橋下流）平らな川底で両岸コンクリート護岸です。護岸の両サイドは竹林が残されています。
- ・下里川上流（福住川：福住川下流）両岸の堤をコンクリート護岸で固められています（写真）。
- ・下里川下流（大坪橋上流）平らな川底ですが淵と瀬があり両岸コンクリート護岸です。



2 調査方法

平成8年から16年にかけては環境省が「緑の国勢調査」（1986年）で定めた16種の水生生物を使用しました。

平成17年の今年には国土交通省が定めた30種を使用しました。

表1 調査結果

3 調査結果（表1）

- 万願寺川上流（極楽橋下流）
大変汚い水～きれいな水
- 万願寺川下流（鎌崎橋下流）
大変汚い水～きれいな水
- 下里川上流（福住川：福住川下流）
大変汚い水～少し汚れた水
- 下里川下流（大坪橋上流）
大変汚い水～きれいな水

調査場所\年	平成8年	平成9年	平成10年	平成11年	平成12年
万願寺川(上流)			～		
万願寺川(下流)			～	～	～
下里川(上流)					
下里川(下流)			～		
調査場所\年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年
万願寺川(上流)	～		～		
万願寺川(下流)	～	～		～	
下里川(上流)					
下里川(下流)	～		～	～	

大変汚い水 汚れた水 少し汚れた水 きれいな水
平成8～16年：環境省(1986：16種の指標生物を使用)による
平成17年：国土交通省(30種の指標生物を使用)による

4 まとめ

10年間の調査結果は年によってバラツキがあります。しかし、昨年のように大きな台風が来た年は、台風の影響でゴミなどが流されて見た目にもきれいな川になっていました。そしてカワゲラが見つかったりして初めて「きれいな水」となりました。このようにその年の台風や濁水状況で調査に影響が出ているようです。しかし、年々調査結果がよくなっていることは確かです。

5 最後に

農業を学ぶ私たちは、河川やため池の水を灌漑用として利用しています。この水の状態を調べることは大変有意義なことです。また、農業を行うことでこれらの水系を汚しているかもしれません。播磨農高の生物部では、今後もこの調査を継続していきたいと思っております。

田んぼの学校

兵庫県立播磨農業高等学校 稲作研究班 3年 津吉 悠宣

播磨農業高校では、平成14年からアイガモ水田を開放して「田んぼの学校」を行っています。4年目の今年は北播磨県民局の「ひょうごの森・川・海再生」セミナーとして実施しています。

今年の予定を紹介します。

第1回6月18日(土) 田植え

第2回7月16日(土) ため池の植物

播磨ウエットランドリサーチ 松本 修二先生、今津 賢朗先生

第3回8月20日(土) 北播磨の自然体験バスツアー

第4回9月24日(土) 田んぼの生き物 姫路水族館 市川 憲平先生

三木自然愛好会 小倉 滋先生

田園空間ネットワーク 稲作研究班

第5回10月22日(土) 収穫祭 意見交換 修了式

アイガモ水田には多種多様な生物が姿を見せてくれます。私たちと一緒にその生きものを観察しませんか？



近頃よく見かけませんか？こんな看板・・

北播磨をドライブしていたり散歩したりしていると、時々こんな看板を見かけたりしませんか？

これは、北播磨県民局における悪質な不法投棄対策の一環として、地域の自治会などでパトロールを行うなど、不法投棄に住民の方々が自主的に取り組んでいる地域を「**不法投棄未然防止モデル地区**」に指定し、看板やパトロール用の資材を県民局が支援する事業を実施しており、その際に配布した看板です。

この看板が立っている地区は特に住民の方々の不法投棄への監視の目がきびしく光っています。どうか皆さんも自分の土地や家の前に不法投棄をされないよう管理を徹底していただくとともに、産業廃棄物の不法投棄を発見した場合は直ちに県民局、市役所、町役場、警察などへの通報をお願いします。

編集後記

北はりま ECO-NEWS、なかなか2号が出ないので創刊号で廃刊になったのではというウワサもありましたが、第2号をなんとか発刊することができました。

これからも少なくとも年に1回は発刊(できれば年に2回を目指して(^_^;)していきたいと思います。

北はりまエコニュースは環境・自然保護団体の皆様方の情報交換、意見交換の場としてお役に立てればと思っております。投稿なども広く募集しておりますので、北播磨で環境・自然保護に取り組んでおられる方々の投稿をお待ちしております。

編集・発行

北播磨地域さわやかな環境づくり行動計画推進委員会

事務局 兵庫県北播磨県民局県民生活部環境課

〒673-1431

兵庫県加東市社字西柿 1075-2

TEL 0795-42-5111(内 342) FAX 0795-42-7103

電子メールアドレスについては迷惑メール防止のため紙面では公開していません。ご迷惑をおかけしますがお電話にてお問い合わせをお願いします。

北播磨県民局ホームページ <http://web.pref.hyogo.jp/kitaoharima/index.html>